

「十日乞ひす宝恵かゝ道中」

「宝恵かゝ道中」とは、商売の繁盛を願い、街に福と呼び込もうと、正月十日に、商店街の世話役がミス十日乞ひす（かつては花柳界の芸者）を連れて街を練り歩くもので、随所で、「小倉乞ひす締め」を打ち込みます。また「宝恵」とは、金銀財宝のことですが、このあでやかな芸者衆と宝恵と見立てた道中は、四十年以上の歴史を誇ります。この道中によって、街は正月のおめでたい雰囲気に包まれます。



「小倉・伝統文化シリーズ」は、小倉における地域の文化や伝統行事を広く紹介し、次代に伝えていくためのものです。

監修：小倉中央商店街連合会
発行：小倉北区役所
問い合わせ先：小倉北区役所まちづくり推進課
☎ 093-582-3335

小倉・伝統文化シリーズ

小倉乞ひす締め



「小倉おびす締め」とは

手締めとは、物事の決着と、あるいは今後の発展を祝って皆で行うそろいの拍手のことといい、地方によって、さまざまな風習があります。小倉では、毎年一月十日に小倉中央商店街連合会が開催する「十日おびす宝恵かご道中」での「小倉おびす締め」が伝統的なものです。

この「小倉おびす締め」とは、商売繁盛や福にあやかることを祈念して、「いよー、よい、よい、よい、やー」という掛け声とともに、体全体で拍手と打ら込むもので、その動きは、福を包み込み、運を持ちあげる姿を表しています。また、掛け声の「いよー」は「祝おう」が転訛したものだといわれています。

「小倉おびす締め」の作法

「小倉おびす締め」は、願いをかなえようと心を落ら着かせて集中し、運が上向くように威勢よく打ら込むのが作法です。

まず、構え(①)は肩幅に足を広げ、自然体で立ちます。世話役の口上で全員が「いよー」と発声しながら、腕で福を包み込むように輪(②)を描き、同時に腰を割って「よい、よい」と二回拍手(③)と打ります。さらに「やー」と腕を万歳(④)のようにあげます。この「よい、よい、やー」と三回繰り返しますが、最後の「やー」は、運を持ち上げるように、腕を下から一杯(⑤)に持ち上げます。

通常はこのように打ら込みますが、さらに縁起を担ぐときには、世話役の口上で「よい、よい、やー」をもう三度繰り返します。このときは、最初の「いよー」は省き、構えの姿勢から打ら込みます。



◆発声

世話役口上、○○の益々のご繁栄と祈念して

商売繁盛
商売繁盛

(一) いよー、よい、よい、やー(右線部三四)

(一) さらに縁起を担ぐときは、(

商売繁盛(で、いよーは省く)
よい、よい、やー(三四)

(一) 同

